

NEWSLETTER #118

p.1	JASPM30 大会直前案内	
p.3	2018 年度第 2 回関西地区例会報告	永富真梨
p.4	会員活動報告	大谷武文
information		
p.5	事務局より	

大会直前案内

JASPM30 大会 開催直前!!

大会実行委員長 大和田俊之

みなさまにあらためてお知らせいたします。

11月24日(土)、25日(日)の二日間にわたり、慶應義塾大学日吉キャンパスで日本ポピュラー音楽学会第30回大会が開催されます。(東京の三田キャンパスではなく、横浜の日吉キャンパスです!くれぐれもお間違いないよう。)

30回記念大会ということで、シンポジウムには三井徹先生、小川博司先生、細川周平先生、井上貴子先生、毛利嘉孝先生が登壇します。学会創設に関わった先生方をはじめ、日本のポピュラー音楽研究を担ってきた方々が一堂に会する貴重な機会です。

また懇親会では、戦後日本の洋楽受容に大きな役割を果たし、大野雄二や村井邦彦、神保彰などを輩出した日本最古のビッグバンドサークル、慶応ライト・ミュージック・ソサエティの演奏も予定されています。(あくまでも予定です・・・)

みなさま、ぜひ足をお運びください!

日時:2018年11月24日(土)~25日(日)

会場:慶應義塾大学日吉キャンパス

神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

東急東横線・目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン日吉駅すぐ

大会ウェブサイト:<https://jaspm30.wordpress.com/>

JASPM30 プログラム(最終確定版)

2018年11月23日(金)

16:00 理事会:来往舎 2F 小会議室

2018年11月24日(土)

13:00 開場・受付開始

受付・クローク・物販:第6校舎 1F J612 教室

14:00~16:50 個人発表

個人発表A:第6校舎 1F J611 教室

司会:エドガー・W・ポーブ(愛知県立大学)

A1 劉潤(国立音楽大学大学院博士後期課程)

「昭和戦前期の関東州・大連放送局による流行歌の生放送—その「政策」と社会的要因及び影響について—」

A2 島倉聖朗(横浜市立大学大学院都市社会文化研究科博士後期課程)
「太平洋航路における「船の楽士」を通じた軽音楽受容過程の分析—演奏プログラムの曲目変遷を事例に—」

司会:高橋美樹(高知大学)

A3 加藤夢生(東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻修士課程)
「戦後日本ジャズ史における「ジャズ・フェスティバル」の位置づけについて—戦後から1970年代後半に焦点をあてて—」

A4 澤田聖也(東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程)
「本土復帰前後における沖縄ロック・ミュージシャンの演奏活動の変化—Aサインクラブを中心に—」

個人発表B:第6校舎3F J631教室

司会:佐藤良明(東京大学名誉教授)

B1 Rodney A. Dunham(帝塚山大学)
“Queens of Noise:
The Runaways as Jungian Archetypes in Japan and in America”

B2 黄逸雋(コウイツシユン)(法政大学大学院人文科学研究所日本文学専攻国際日本学インスティテュート博士後期課程)
「ねじれた演歌像—「女」に結びつけられすぎた「日本の心」—」

司会:輪島裕介(大阪大学)

B3 増田聡(大阪市立大学)
「「愛国ソング」の系譜—ニッポン系ポップ研究序説—」
B4 佐藤慶治(精華女子短期大学幼児保育科専任講師)
「NHK 教育番組「みんなのうた」の成立と「うたごえ運動」の関連性」

個人発表C:第6校舎3F J632教室

司会:宮入恭平(立教大学兼任講師)

C1 小林篤茂(ミュージシャン)
「ライブにおける、音響エンジニアの役割、創造性、

技術性に関する考察—ライブハウスのPAエンジニアを事例に—」

C2 戸田直夫(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)
「「ハーモニーディレクター」は日本の吹奏楽をどう変えたか—楽器産業と学校音楽文化—」

17:00~18:00 総会:第6校舎2,3F 623教室

18:10~20:10 懇親会:協生館2F ファカルティラウンジ

2018年11月25日(日)

9:00 開場・受付開始

受付・クローク・物販:第6校舎1F J612教室

9:30~12:30 ワークショップ

ワークショップA:第6校舎1F J611教室

なりきることの創造性、ミュージシャンの(への)生成変化

発表者:宮崎尚一(愛知県立大学非常勤)

長澤唯史(椋山女学園大学)

広瀬正浩(椋山女学園大学)

討論者:水川敬章(愛知教育大学)

ワークショップB:第6校舎3F J631教室

定量調査から見るポピュラー音楽

—ジャンル・ジェンダー・階層・人間関係—

問題提起者:南田勝也(武蔵大学)(コーディネーター・司会)

木島由晶(桃山学院大学)

永井純一(神戸山手大学)

討論者:米田幸弘(和光大学)

ワークショップC:第6校舎3F J632教室

戦後日本における表現としての音楽文化

問題提起者:粟谷佳司(立命館大学)(代表者・コーディネーター)

太田健二(四天王寺大学)

平石貴士(立命館大学大学院)

12:30~14:00 昼休み

12:40~13:30 国際委員会:第6校舎1F J611教室

14:00~17:00 シンポジウム:第6校舎2,3F 623教室
日本ポピュラー音楽学会設立30周年記念シンポジウム
日本におけるポピュラー音楽研究—30年の歩み—
パネリスト: 三井徹(金沢大学名誉教授)
小川博司(関西大学)
細川周平(国際日本文化研究センター)
井上貴子(大東文化大学)
司会:毛利嘉孝(東京藝術大学)

2018年第2回関西地区例会報告

永富真梨

日時:2018年8月29日(水)14:00~18:00
会場:関西大学 千里山キャンパス 第3学舎 A305教室
司会:太田健二(四天王寺大学)
報告者:柴台弘毅(関西大学・大阪音楽大学ほか非常勤講師)
加藤賢(大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻音楽学研究前期博士課程2年)
藤下由香里(大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻音楽学研究博士後期課程3年)
輪島裕介(大阪大学大学院文学研究科准教授)

2018年8月29日に開催された2018年度第2回関西地区例会報告では、2018年6月9日から10日にかけて中国伝媒大学(Communication University of China: CUC)で開催された「6th Inter-Asia Popular Music Studies Conference(以下、IAPMS2018)」の参加者による報告ならびに、東アジア圏のポピュラー音楽研究者たちとの今後の研究と連携について議論が行われた。

1.柴台弘毅(関西大学・大阪音楽大学ほか非常勤講師)
「6th Inter-Asia Popular Music Studies Conference(IAPMS2018)の概要と東アジア圏のポピュラー音楽研究」

第1報告者である柴台弘毅氏は、IAPMS2018の概要をはじめに紹介した。次に、例会前に口頭発表をした参加者に柴台氏が配布したアンケートへの回答をもとに、参加者が印象に残ったパネルや、国際学会参加への利点を説明した。中国伝媒大学の北京の中の位置や、大学周辺の様子、国際学会での言語的な障壁や、ネットワークの広がりをIAPMS2018に参加しなかった例会参加者も概観できるような報

告であった。

2.加藤賢(大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻音楽学研究前期博士課程2年)

「ニッポンの音楽はくアジアの音楽か?:the 6th Inter-Asia Popular Music Studies Conference 2018」

次に第2報告者である加藤賢氏が、口頭発表原稿作成ならびに、学会参加への資金調達の方法などを含めて報告した。加藤氏は、学会以外の北京における音楽事情も紹介し、日本の音楽愛好者の中国語圏の音楽の知識の浅さを浮き彫りにするような報告であった。

3.藤下由香里(大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻音楽学研究博士後期課程3年)

「IAPMS2018 参加報告:海外の研究者が見る日本のポピュラー音楽というフィールド」

第3報告者である藤下由香里氏も、加藤氏と同じく、発表原稿を英語で準備するまでの経緯や、反省点などを紹介した。藤下氏は、発表中の様子を説明しながら、国際学会で発表後に英語で議論を展開する難しさも報告した。

4.輪島裕介(大阪大学大学院文学研究科准教授)

「アジアと/の日本:日本のポピュラー音楽研究の問題としての〈インターアジア〉」

第4報告者である輪島裕介氏は、今年度のIAPMS2018の代表を務めた何東洪氏についても紹介した。何氏は、ライブハウス「地下社会」のオーナーだった経験があり、中国本土からの台湾独立を擁護する研究者でもある。輪島氏は、このような社会的背景を持つ何氏が中国本土でインターアジアのポピュラー音楽に関する学会を組織することの重要性も示した。

以上の報告を通して、報告者とフロアが、東アジア圏のポピュラー音楽シーンならびに、そこでの研究をまだまだ熟知していないと言わざるを得ない日本のポピュラー音楽シーンと研究を、インターアジアのポピュラー音楽研究にどのように位置づけるかという問題を議論した。またそれに関連し、英語圏の学術スタンダードが覇権を握ることが多い昨今、インターアジアのポピュラー音楽学会で英語を使用することの可能性と問題点についても活発

に話し合った。

まず、いずれの報告者からも日本のポピュラー音楽シーンならびに研究が、東アジア圏のポピュラー音楽と研究者のつながりとは孤立的な位置にあることが指摘された。東アジア圏では、日本のポピュラー音楽シーンが広く知られ、消費されているにも関わらず、近年まで日本ではこのようなインターアジアの流れを把握するものが少なかった。また、日本のポピュラー音楽からある種の影響を受けながら発達したとも言える第二次世界大戦後の東アジア圏のポピュラー音楽シーンも、日本ではあまり周知されていない。このような状況の中で、日本のポピュラー音楽研究をインターアジアなものにしていく課題と可能性が議論された。

日本のポピュラー音楽研究をインターアジアなものとするために、本例会で大きく議論されたのが、学術論文や国際学会発表における英語の使用ならびに、英語圏の学術スタンダードとインターアジアなポピュラー研究の関係性である。フロア参加者の増田聡氏によると、IAPMS 発足時には「ブローキングリッシュが僕たちの共通語である」と言われていたという。しかし、英語のネイティブスピーカーとは異なる形の英語を使用して議論を展開するにしても、言語の障壁は存在し、ある程度の英語能力を習得することで、日本における研究を東アジア圏に発信せざるを得ないと報告者並びにフロアからも指摘があった。

その上で、日頃の研究に加えて、英語をどのレベルまで習得するのか、口頭発表原稿を執筆する際、英語を日常的に使用している院生や研究者とどのように連携していくかについても具体的な案が出された。例えば、言いたいこと、言うべきことをシンプルな語彙と構文で表現するレベルの英語を習得するべきだという意見があった。一方、高い英語能力をすでに持っている日本の院生や研究者に英語原稿の補助を「アウトソーシング」することで、日本のポピュラー音楽研究が広がりを持つのではないかという意見も出された。しかし、一方、この「アウトソーシング」型によって、日本語による日本のポピュラー音楽研究がより一層孤立する懸念

も示された。このような現象を防ぐため、英語圏の研究書や学術論文のみならず、日本語圏、ならびに東アジア圏の研究者による研究を積極的に引用したりすることで、インターアジアな知識を発信する重要性も述べられた。

本例会は、JASPM が東アジア圏ならびにそのほかの地域との研究者の交流や議論を活発化させつつ、英語圏の学術スタンダードに介入していけるようなインターアジアポピュラー音楽研究を発展させる組織としてさらに発展をしていけるような展望を垣間見る機会となったと言えよう。

(永富真梨)

会員活動報告

放送で伝えるポピュラー音楽の魅力

大谷武文(フリープロデューサー)

6月に入会致しました大谷武文と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は1974年から2012年まで大阪の毎日放送でラジオやテレビの主に番組制作畑を歩み、その間、情報ワイド番組、音楽番組、バラエティー番組などのプロデューサーを歴任。2010年から(2年間は重複)は近畿大学に新しく設立された総合社会学部で教授としてメディアを志望する学生さんの指導に当たっておりましたが、今年3月に退職。そもそも放送業界を選んだのは音楽に関われる仕事をという事でしたが、初心に戻り、現在はフリープロデューサー、ポピュラー音楽研究家として4月より放送を通じて下記のような活動を行っておりますので報告をさせていただきます。

◆滋賀県 FM おおつ ラジオ番組

「白熱 ロック 教室」

パーソナリティー(構成・演出も含む)

放送日 隔週土曜午後2時から4時半(2時間半)

ポップミュージックは時代の色合いを見事に描き出し、その時代を生きる人々の息吹を伝えるメディアであるとの視点で番組を進めています。4月に

スタートし、ポップミュージックの大河の一番上流であるブルースはどんな音楽かというところから始めました。

更にラジオという当時のニューメディアの登場により黒人も白人も聞く音楽の区別がなくなり、そこからロックンロールが生れ、この川はどんどん大河へと成長、つまり、この番組は現在に至るまでのポップミュージックの歴史を俯瞰し、音楽だけではなく、その時代背景などと連動して伝えていきます。

今後の予定は…

- ボブ・ディランなどのモダンフォークのシンガーと反戦運動、公民権運動との関わり
- ポップミュージックの「OS」を根底から変えたビートルズ革命について
- ヒッピーカルチャーが残した功罪
- 敗戦が日本のポップミュージックに与えた影響
- グループサウンズは時代のあだ花だったのか
- 日本の音楽を変えた松本隆とユーミンなどを予定

◆和歌山放送 ラジオ番組

「秘密のビートルズ」

パーソナリティー (構成・演出も含む)

放送日 隔週土曜 午後8時から8時半(30分)

聞き手 中田好美(近畿大学総合社会学部卒業)

この番組は30分間丸ごとビートルズの事だけ扱う番組です。なぜ解散して50年も経つアーティストが今もお多くの人々の共感を集めるのか、この番組はビートルズの4人が類まれなる音楽的才能と情熱を持っていただけではなく、「起業家マインド」を持ち、時代と音楽を切り開いてきた事に対し、様々な視点で分析を試みていきます。

今後のテーマは…

- ジョン・レノンとポール・マッカートニーの歌詞の特徴を分析。彼らの成長環境がどのように作品に影響を与えてきたか。

- サウンドメイクに関する革新性とは
- ビートルズに影響を受けた音楽を聞き、それがどのように作品に反映されてきたか。
- ビートルズが国内外のポップミュージックに与えた影響
- ビートルズと同時代に流行ったポップミュージックとの比較

また是非やってみたいのは、ラジオを通して、あの時ビートルズ旋風のだ真ん中にいたファンの体験談や、今もビートルズの音楽に愛着を持っている人々の、いわば「受け手側」の声を集めて共有を図ることです。「ビートルズ側」の記録は、大量の書籍、資料などを通じ、間違いなく今後100年、200年と残って行くでしょうが、リアルタイムで「体験」した受け手の生の息吹も同様に後世に伝えていく必要があります。

ちなみにこちらの番組は和歌山県外でもradikoプレミアムで聴取可能です。

(大谷武文)

◆information◆

事務局より

1. 原稿募集

JASPM ニュースレターは、会員からの自発的な寄稿を中心に構成しています。何らかのかたちでJASPMの活動やポピュラー音楽研究にかかわるものであれば歓迎します。字数の厳密な規定はありませんが、紙面の制約から1,000字から3,000字程度が望ましいです。ただし、原稿料はありません。

また、自著論文・著書など、会員の皆さんのアウトプットについてもお知らせ下さい。紙面で随時告知します。こちらはポピュラー音楽研究に限定しません。いずれも編集担当の判断で適当に削ることがありますのであらかじめご承知おきください。

ニュースレターは学会ウェブサイト掲載のPDFで年3回(2月、5月、11月)の刊行、紙面で年1回(8月)の刊行となっております。住所変更等、会員の動静に関する情報は、紙面で発行される号に

のみ掲載され、インターネット上で公開されることはありません。PDF で発行されたニューズレターは JASPM ウェブサイトのニューズレターのページに掲載されています。

(URL : <http://www.jaspm.jp/newsletter.html>)

8 月の紙媒体での発行号については、会員の動静に関する個人情報を削除したものを、他の号と同様に PDF により掲載しております。次号 (119 号) は 2019 年 2 月発行予定です。原稿締切は 2019 年 1 月 20 日とします。また次々号 (120 号) は 2019 年 5 月発行予定です。原稿締切は 2019 年 4 月 20 日とします。

投稿原稿の送り先は JASPM 広報ニューズレター担当(nl@jaspm.jp)ですので、お間違えなきようご注意ください。ニューズレター編集に関する連絡も上記にお願いいたします。

2. 住所・所属の変更届と退会について

住所や所属、およびメールアドレスに変更があった場合、また退会届は、できるだけ早く学会事務局 (jimu@jaspm.jp) まで郵便または E メールでお知らせください。会員情報変更届は JASPM ウェブサイトよりダウンロードできます。ご連絡がない場合、学会誌や郵便物がお手元に届かないなどのご迷惑をおかけするおそれがございます。例会などのお知らせは E メールにて行なっております。メールアドレスの変更についても、速やかなご連絡を事務局までお願いいたします。

3. 会費請求と会員のメールアドレス問い合わせについて

2018 年 3 月に、2018 年度の会費請求書類を、学会誌 Vol.21 (2017) と一緒に会員の皆様のお手元にお届けしました。学会誌は 2017 年度の会費納入者にお送りしておりますので、学会誌が同封されていない場合は、速やかに会費を納入いただきますようお願いいたします (会費納入後速やかに会誌を送付いたします)。

なお、会員の皆様には、電子メールにて随時、学会からのお知らせ「JASPM メールニュース」をお送

りしておりますが、最近、メールが不着となる会員の方が増えております。そのため、会費請求書類とあわせて、会員の皆様に最新のメールアドレスの問い合わせに関する書類を同封しております。メールニュースが届いておられない会員の皆様につきましては、ご留意の上ご回答いただきましたら幸いです。

JASPM NEWSLETTER 第 118 号

(vol. 30 no.4)

2018 年 11 月 16 日発行

発行：日本ポピュラー音楽学会 (JASPM)

会長 小川博司

理事 青木深・井手口彰典・井上貴子・大和田俊之・川本聡胤・谷口文和・増田聡・安田昌弘・山崎晶

学会事務局：

〒606-8588

京都市左京区岩倉木野町 137

京都精華大学

安田昌弘研究室内

jimu@jaspm.jp (事務一般)

nl@jaspm.jp (ニューズレター関係)

<http://www.jaspm.jp>

振替：

00160-3-412057 日本ポピュラー音楽学会

編集：平石貴士